

KOCHI 2015 ROTARY 2016 CLUB SINCE 1937



世界への
プレゼントになろう
2015-16年度 RIテーマ

週報



Weekly report

第3249回
第3250回

2016年 2月16日

2016年 2月23日

2016年3月1日発行

● 会長挨拶



皆さん、こんにちは。2月14日の日曜日には「高知龍馬マラソン」が開催されました。気温が20℃近くまで上がって、選手の皆さんは非常に走りづらかったようです。当クラブからも7、8名が参加し、最後まで健闘されたようですが、うちの会社の社員も4名が参加しました。今ゼッケンナンバーをインプットすると、5キロごとのラップタイムや通過時間が出てきます。1人は4時間半、もう1人は5時間半、1人は35キロでリタイア、1人は出走せずということでした。龍馬マラソンは市民マラソンということで、今回は8000名近い方が出場されたそうです。

7日の日曜日、NHKの「ダーウィンが来た! 生き物新伝説」という番組を見ているとテーマは「コウノトリ復活最前線」でした。

コウノトリは、全長1メートルを超える大型の鳥で、ドジョウやカエルなど、里山の小動物をえさとして、かつては日本各地に生息していましたが、戦後の環境悪化などで数が激減。1971年、野生のコウノトリは絶滅してしまいました。その後、海外から譲り受けたもので人工繁殖に成功。2005年、兵庫県豊岡市で初めて野外に離され、2年後のその鳥たち

が野外繁殖に成功、現在、豊岡周辺に約50羽が暮らしています。

こうした中、去年、繁殖地を日本各地へと広げる新たな取り組みが始まり、千葉県野田市に3羽、福井県越前市に2羽が放されました。このコウノトリたちには、衛星利用測位システムが取り付けられ、居場所が分かるようになっています。残念なことに野田市に放された3羽のうち、メスの1羽は事故で死んでしまったのですが、オスの1羽が2月10日現在、高知県大月町付近に居ることが確認されています。名前は「翔(しょう)君」。

コウノトリは冬の時期、越冬をかねて気温が高く、えさがたくさんあるところに飛んでくるそうで、飛来地は、えさが豊富で環境のいいことのパロメーターでもあるそうです。大月町が気に入って、少しでも長くいてくれればと思います。

全国各地でコウノトリの野生復活を目指して、地道な努力を続けておられる飼育員の方々や農家の皆さまに感謝するとともに、野生での繁殖が進むことを期待したいと思います。

本日のゲストスピーチはオフィス熱気球代表の伊藤英子様「障害があっても、年をとっても、どんな状態であっても、最期のそのときまで、その人らしく生きるために」というテーマでお話を伺います。



■本日のプログラム [3月1日]

ゲストスピーチ

(有)アフロディア 代表取締役社長 西川 きよ氏
「感謝の心で醸し合う、人が生きる経営」

会 長	野 村 茂
副 会 長	川 添 昇
幹 事	小 笠 原 晃 男
副 幹 事	伊 丹 由 美
会報責任者	鎮 西 正 一 郎

2月16日 例会

● ロータリーソング「四つのテスト」



● 今週のピアノ曲「花は咲く」 ピアノ演奏：山内り会員

● 幹事報告

- ・ 5月13日から15日、徳島で開かれる地区大会への本登録の案内が来ています。出欠表への記入をお願いします。締め切りは3月18日ですが、宿泊予約の関係がありますので、できるだけ早い記入をお願いします。
- ・ 2月23日の例会は、国際ロータリー創立夜間例会です。6時半から三翠園にて。



● 新会員スピーチ

障害があっても、年をとっても、どんな状態であっても、
最期のそのときまで、その人らしく生きるために

オフィス熱気球 代表 伊藤 英子 氏

私は、理学療法士として近森病院で仕事をしていたのですが、もっと他にやり方があるんじゃないかということで、病院の勤務を辞めたあと、高知市の在宅介護支援センターや福祉交流プラザの立ち上げに携わり、その後はフリーでターミナルケアに関わったりしてきました。現在は、オフィス熱気球という事務所をつくって、コーチング、人材育成、当事者支援、ワークショップ等々自由に好きなように仕事をしています。



私は子どものころから、普通の女の子のように、保母さんになりたい、花屋さんになりたいといったものが全くなかったのですが、中学で進路を決めないといけないといったときに、人にしかできない仕事、人だからこそできる仕事をしたいと思って、選んだのが理学療法士です。1970年代、進路の先生に「リハビリって何や」と言われるような時代でした。1980から90年代はご本人の問題、課題、できないことに焦点が当たっていて、できないことをできるようにする。何とかしてあげるといった医療的要素が強く、かと言って地域で福祉ができるかという、高知市にデイサービスは1カ所しかないという状態でした。

一般的には、リハビリとか理学療法士というと、病院の中で何か訓練をしているイメージが浮かぶと思いますが、もともとリハビリテーションという言葉は、再び適した状態になる。本来あるべき状態を取り戻すという意味です。本人の能力障害や機能障害を改善することだけじゃなく

て、社会の中に障害のある人たちが一緒になって生きていける。そのためのあらゆる手段がリハビリテーションだと定義されています。要は、障害があってもなくても、その人らしく生きるということを支えるための全ての活動のことです。

障害があっても自分らしく生きていくぞという方は本当にごく一部です。治らない障害を抱えて何とか治したいと、リハビリの訓練しかしらない毎日を過ごしている方。あるいは原因不明の難病で、先が見えない中で苦しんでいる。確実に大人になることができないことが分かっている子どもさん、そのご家族。現場で関わる人にはいろんな方がいます。そんな中で、その人らしく生きることを支えるとはどういうことだろうと、ずっと悩みながらきました。支援者としてどうあるべきなんだろう。支援者側もものすごく苦しんでいるということも実体験として分かりました。死に直面しているところへリハビリで行って、何ができるんだろう。看取りをしている中で、看護師さんやヘルパーさんが大変な思いをしている。治らない病気を抱えた方が不満や悩みをぶつけてきたとき、支援者がどうしたらいいのか。そんな支援者をどんなふうにサポートできるんだろう。

大きな転機になったのは、自分自身が病気になってしまったことです。脊髄性進行性筋萎縮症で成人発症ではとても珍しい病気です。原因不明で治療法もない、運動神経だけが死んでいく病気で、四肢麻痺、顔面麻痺、呼吸・嚥下ができなくなります。この病気になったとき、この状況で私が自分らしく生きて死んでいくってどういうことなんだろう。自分が今までやってきたことって一体何だったんだろうとガラガラと崩れるような衝撃を受けました。病気や障害になると、自分が自分らしいと思っていたことと体がどんどん失われてしまうので、それを抱えて自分



らしくというのはどういうことなんだろう。そんなことを考え、悩みするうちに、自分の中に生まれたのが、私は最後までその人らしく生きるということを握って仕事をしてきたけど、その主役は一体誰だったんだろうということでした。私自身が最期まで私らしく生きる主体は間違いなく私です。人生の主役というのをきっちりと取り戻すことが本当に必要なんだろう。そうしたときに、当事者としての私、支援者としての私の役割が自ずと見えてきたように思います
 どういう状態であっても、自分の人生を楽しむことがで

きる。それを楽しむ責任は自分にある。自分の権利は自分で守る。その力が自分にはあるし、支えられるだけの弱い存在じゃないということを伝えていきたい。このこと自体を実際に苦しんでいる人に実感していただき、がっちり握って生きていって欲しい。障害があろうがなかろうが、若かろうが年をとっていようが、その人がその人らしく生きる。そんな社会、そんな関係性をつくっていきたいと思っています。



2月23日 国際ロータリー創立記念夜間例会

● ロータリーソング「我らの生業」

● 会長挨拶

皆さん、こんばんは。来週からは弥生3月、春近いです。寒さももう少しです。

本日の国際ロータリー創立記念夜間例会は、1905年2月23日、ポール・ハリス、ガスター・バス・ローア、シルベスター・シール、ハイラム・ショーレの4人がシカゴで初めて会合を開いた日を記念するもので、世界中のロータリークラブでお祝いの集会がもたれています。

日々のロータリー活動において、国際ロータリーの存在を意識している会員は余り多くないと思いますが、今夜はロータリーの目的について少しご紹介します。

国際ロータリー定款第4条、ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。

具体的には、次の各項を奨励することにある。

1. 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること
2. 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること
3. ロータリアン一人一人が、個人として、また事業及び社会生活において、日々、奉仕の理念を実現すること
4. 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

また、私たちの行動基準となっているものには「四つのテスト」があり、二つの標語があります。第1標語は「超我の奉仕」、第2標語は「最もよく奉仕する物、最も多く報いられる」です。当初は親睦と事業の発展を目的に創立されたロータリークラブでしたが、会員の物質的相互扶助から脱却して、アーサー・フレデリック・シェルドン（シカゴRC）の提唱した奉仕理念であるこの第2標語が取り入れられたとされています。

本日は、「ロータリー44年を振り返って 地球33番地事業を中心に」と題して、高橋淳二会員に記念公演をお願いしています。よろしくお祈りします。



● お客様 (敬称略)

- ・高知西ローターアクトクラブ
黒川太智、橋村芳菜
- ・燦燦奨学生
明神恵理 (高知大学人文学部社会経済学科4回生)
島本 壱 (高知大学教育学部学校教員養成課程2回生)
山中貴博 (高知大学教育学部学校教員養成課程2回生)
- ・火曜会の皆さん
高橋伊都子、高橋杏樹



◆ 高知西ローターアクトクラブより

5月21日、創立30周年式典を行います。当日は、高知西RAC卒業生の大石宗^{しゅう}さんの記念公演を予定しています。多くの皆さんの登録、出席をよろしくお願いします。



◆ 燦燦奨学生近況報告

・明神恵理さん

大学の単位は全て取得し、卒業論文の提出と報告会も終了、現在成績待ちのところですが、春からは、高知労働局に勤務することが決まっています。国家公務員ですが、地域に密着した仕事内容ですので、今まで育てていただいた地元の方に恩返しができるように、精一杯職務に励みたいと思っています。今まで、さまざまなご支援をありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。



・島本 壱さん

大学ではサッカー部に所属しており、毎日チームメイトと切磋琢磨して力を伸ばしています。将来は国際的に活動したいという夢を持ちつつ、勉学にも励んでいます。奨学生という自覚を忘れず、残り2年間の大学生活をしっかりと意味のあるものにしていきたいと思っています。



・山中貴博さん

将来は教員の道に進みたいと思っています。今期は1年のときと比べて専門教育が多く、時間があっという間に過ぎたという印象です。来年は教育実習もあり、さらに大変になると思いますが、目の前のことを一つずつしっかりと積み重ねて、教員になるために役立てていきたいと思っています。



酒税法に反しない方法での演出です



● 記念卓話

ロータリー44年を振り返って
地球33番地事業を中心に

高橋 淳二 会員

私が当クラブに入会したのは、昭和48年1月、紹介者は横田憲介さんでした。入会当初はひな壇に座っての食事で、とても食べ辛かったことをはっきり覚えています。あれから44年、月日の経つのは早いものだと驚いています。



当時は、朝早くから中央公園や帯屋町、鏡川の土手の清掃など、皆が汗を流して奉仕活動をしたものです。そして、ロータリーは金品の寄付ではなくて、活動を通じて多くの人に影響を及ぼすことだと教えられました。時にはお金も使って奉仕もしました。私は2度社会奉仕委員長を務めましたが、狭い露地でも入っていける小型の消防ポンプや高知駅のタクシー乗り場の雨避けの屋根を寄贈しました。自分でいうのはおかしいですが、初心を忘れず、奉仕の理想に燃えた良きロータリアンであったと思います。ところが月日が経つにつれ、ロータリーに対する情熱が薄れてきました。加えて昭和56年から医師会の役員に任命され、その後、20年間、この職務に追われるようになりましたが、これも医師としての職業奉仕の一環だと思って頑張っていました。

平成元年、当時の尾木会長から次期会長をせよとの命令を受けました。再度、ロータリーの勉強が始まったのですが、ロータリー活動について何をやらばいいか全く分からない状態でした。そんなとき、あることをきっかけに地球33番地を活用することを思いつきました。

高知市弥生町の江の口川のほとりに、高知RCの先輩たちが昭和37年5月、台風銀座である高知市の市民に台風の情報を知らせる目的で建てたモニュメントがあります。当時はラジオしかありません。この地球33番地を基点にラジオを聞くと、台風の位置や動きを知る上で大変役立つわけです。地球33番地は、東経133度33分33秒、北緯33度33分33秒と、同じ数字が12並ぶユニークな地点です。このような地点は、地球0番地を含め、地球上に21カ所。東経が3桁になる地点を含めると43カ所。そのほとんどが海上で、陸上ではわずか9カ所。しかし、それも砂漠や大草原で、唯一容易にアクセスできるのがこの地球33番地。稀少性の高いこの地点を広く国内外に知らせていくのが、高知RCの会員に課せられた使命でした。

私が会長を務めた平成2年、モニュメントが交通の邪魔になると移設計画が浮上しました。直ちに、社会奉仕委員会で取り上げ、高知市はじめ関係機関と協議して、ようやく

移設を免れました。このことで、先輩が残したモニュメントをもう1度見直し、ここを地球の環境保全を訴える拠点にしようと思いつきました。クラブ内に、地球33番地事業特別委員会を設置し協議を重ねました。全会員同意のもと、事業計画をIMで発表。当時は、文明の発達に伴い自然破壊が進み、熱帯雨林の伐採、砂漠化、酸性雨、オゾン層の破壊、地球温暖化等々、地球の汚染が激しくなっていました。そのため、世界のロータリークラブが環境保全を最重要課題として奉仕活動を進めていました。

高知クラブ全員が一丸となって、事業を推進していく中、NTTから電話100周年記念として、地球33番地を利用して平成3年3月2日、3日の両日、地球33フェスティバルを開催したいので、地球33番地を貸して欲しいという申し入れがありました。協議の結果、NTTとともに共同で事業を推進することになりました。

イベントのピークは平成3年3月3日、午後3時33分33秒。33の3倍の99羽の白ハトが放たれました。訪れた人たちには、高知RC特製の訪問証明書(3,333枚限定)を配布して、地球の環境保全活動を推進。証明書は名刺大にするようにと提案したのは入交太二郎会員、デザイン及び作成は野中朋之会員の依頼で高知新聞社東雲支店、世界各国への発信は橋本パストガバナーが担当。結果、RIのコスタ会長から返信があり、それを佐々木ガバナーが当日発表。1万5,000人が集まり、盛大なイベントが高知市内で繰り広げられ、「ロータリーの友」や「ザ・ロータリー」にも取り上げられ、日本及び世界中に報道されました。これがきっかけで、毎年3月にイベントを行うようになり、世話人代表を高知新聞にお願いしました。また、10年目、20年目の節目には私が語り部として市民に講演してきました。地球33番地は高知RCの代名詞であります。今後も、地球33番地のPRに努めていただき、その名を国内外に広めることで、高知県の発展につなげていきたいと願っています。

私はこのロータリーの中で学んだことを医師会で活用したこともあり、大いに役立ったことでした、何はともあれ、得ることの多かった44年です。高知RCの皆さんに感謝を申し上げまして、私の話を終わらせていただきます。



◇ 例 会 変 更 ◇

高知ロイヤルRC 3月 8日→12日(土)に変更(旭)	高知東RC 3月 9日 ロータリー休日(阪)
高知南RC 3月10日 ロータリー休日(阪)	高知南RC 3月24日 花見例会(阪)
高知中央RC 3月24日 花見夜間例会(城)	高知北RC 3月28日 花見夜間例会(三)
高知RC 3月29日 ロータリー休日(三)	高知ロイヤルRC 3月29日 ロータリー休日(旭)
高知南RC 3月31日 植樹例会(阪)	高知中央RC 3月31日 ロータリー休日(城)

※例会場ホテル：(三)…三翠園 (城)…城西館 (阪)…ザクラウンパレス新阪急高知 (旭)…ホテル日航高知旭ロイヤル

ニコニコ箱 [2月16日]

- 中村 裕司 高知龍馬マラソンの応援に行きました。関雅文さんは頑張っていました。小園さんはユニフォームは立派でしたが、おしゃべりしながら歩いていました。宮地さんは、中間点手前であきらめました。
- 西山 俊彦 前週の週報に尾木さんと一緒に写真を掲載していただきましたので。
- 梅野 勝義 先日、2月14日、皆さんの応援もあり、高知龍馬マラソンを何とか完走することができました！今日現在、まだ体はぼろぼろですが、初のフルマラソンへのチャレンジで自分なりに感動を覚えました。応援いただいた皆さんに感謝の意を込めニコニコします。
- 吉門 文恵 年1回発刊！48回目、今年もおかげさまで多くの皆さまのご協力のもと「就職ガイドブック高知の企業」を発刊することができました。本当にありがとうございます。青少年の皆さん及び高知県の活性化に少しでもお役に立てれば、また、ご活用いただければ幸いです。この冊子が発刊年数を増すごとにピチピチだった私の若さを失いつつも、まだ頑張っております。とっってもありがたく、嬉しくてニコニコいたします。ありがとうございます。
- 関 雅文 龍馬マラソンに参加しました。応援してくださった皆さま、ありがとうございます。記録は年々落ちる一方で、身体の衰えを痛感しました。安藤くん、貴君の背中にはるか遠く見えなくなっていました。
- 安藤 一臣 14日の日曜日に龍馬マラソン2016完走させていただきました。昨年の自分に2分負けてしまいました。応援していただいた方、給水ボランティアの方々に感謝です。

3月のお祝い

- (会員誕生日) 松岡宣明 野村 茂 伊丹由美
千頭邦夫 宮地貴嗣 佐野研治 各会員
- (配偶者誕生日) 泉田節子 浜田理都子 安光紀保子
尾崎真由美 美馬美裕貴 各会員配偶者
- (結婚記念日) 宮地貴嗣 西山俊彦 尾崎典之
久場幸信 津野真千子 久松朋水 各会員

◇ 出 席 率 ◇					
	総数	出席	欠席	メイクアップ	出席率
2月16日	(-8)90	47	28	7	65.85
2月 2日	(-5)90	63	7	15	91.76

◇ 出 席 率 ◇					
	総数	出席	欠席	メイクアップ	出席率
2月23日	(-7)90	53	20	10	75.90
2月 9日	(-7)90	63	6	14	92.77

● 累計額 [2月23日現在]

ニコニコ箱	821,000円	ロータリー <small>さんさん</small> 基金	216,254円	ポリオ募金	288,400円
-------	----------	------------------------------	----------	-------	----------

■ 次週のプログラム [3月8日]

新会員スピーチ
高知太平洋鋳業(株) 代表取締役社長
林田 義久 会員
「こどもの成長とスポーツ」

創 立 昭和12年10月
例 会 日 火曜日 12:30~13:30
例 会 場 三翠園ホテル TEL(822)0131
事 務 局 高知市本町3丁目2-15 高知新聞放送会館1階
TEL(824)8660 FAX(824)2529
E-mail shinairc@joy.ocn.ne.jp
HPアドレス <http://www.221.ne.jp/kochirc/>